

研修員's VOICE

Vol. 26

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



氏名: Mr. SALOT Jonah (ジョナさん)

国名: パプアニューギニア独立国

コース名: 基礎教育における

格差対策のための教育行政強化

研修期間: 2019年6月5日 ~ 2019年7月6日



パプアニューギニアってどんな国？

オーストラリアの北、ニューギニア島の東半分を含む大小500以上の島々からなるパプアニューギニアは、人口825万人(2017年)、面積46万Km²(日本の1.25倍)の島嶼国です。部族数は700以上(未だ未開の部族も有)、言語の数は特定されているだけでも650に上ります。公用語は英語で、教育やテレビ、ラジオ、新聞などは基本的に全て英語を使用しています。

ニューギニア島中央部は3000~4500m級の山々が連なり、道路も整備されておらず、学校へのアクセスも困難なため、オセアニアの他の島嶼国と比較して就学率は低くなっています。



パプアニューギニアの小学校の様子

研修に参加した目的は？

私はニューアイルランド州の教育行政官として、教育計画や方針の作成、学校の運営管理、教員指導等を担当しています。基礎教育への就学率は近年増加していますが、中退者数も多く、都市部と山間部での教育格差(山間部は学校や教員が不足)、男女間の格差(女子の退学率が高い)、教員の質の格差(教員研修制度が無い)など多くの課題を抱えています。

自国と同じ島嶼県である沖縄の教育システムや格差是正の取り組みを学び、自国と州のための新しいシステムを模索するため、今回の研修に参加しました。



各国の課題を討議する様子

沖縄での学びと今後の活動

自国ではへき地への赴任を拒否したり、離職する教員が後を絶ちませんが、人事ローテーションやへき地手当の制度を整備し、へき地の教員不足を解消する、初任者/中堅者向けの教員研修を実施し、教員の質を保つなど、とても参考になり、ぜひ自国でも導入したいと思います。

「へき地校」ということで西表島の小学校を訪問しましたが、校舎や設備も整い、90人の児童に対して18人も教職員が配置されているのに驚き、感心しました。

帰国後は、州の教育関係者に研修内容を共有し、早急に教育改革に取り組んでいきたいと思っています。



西表の小学校で子どもたちに国の紹介をしました